


施設名	東大宮保育園	電話	048-685-0601
住所	さいたま市見沼区丸ヶ崎13-13		


事例 22	タイトル	食育ボードでつながろう！	
	目指す姿 (大きな目標)	食育ボードを通して園での食育を発信し、保護者とつながる。	
	当日のねらい (小さな目標)	コロナ禍で、保育参加が出来ない時期や、給食までの参加が出来ない状況が続いているので、園での取り組みや食事の様子を記録し、発信する。	
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・ <u>1歳児</u> ・ <u>2歳児</u> ・ <u>3歳児</u> ・ <u>4歳児</u> ・ <u>5歳児</u> ・ <u>保護者</u> ・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年 園での取り組みに合わせて	
	場所	園の掲示板	
	資料・教材	日頃保育園で取り組んでいる食育や給食の様子を月に一度テーマに合わせて掲示する。レシピの配布。	
	実施内容	5月野菜栽培 / 6月5歳食事の様子 / 7,8月野菜の収穫 / 9月2歳食事の様子 / 10月食材紹介について / 11月1歳食事の様子 / 12月4歳食事の様子 / 1月3歳食事の様子 / 2,3月まとめ給食の様子を掲示する月に、人気メニューを紹介し、「ご自由にお取りください」と言う形でレシピの配布を行う。	
結果・参加者の反応や様子	<p>食育ボードを見て、親子の会話につながっていた。 レシピ紹介では、「保育園の給食はよく食べるから、どんなレシピなのか気になっていた。」と言う声や、「野菜のレシピも知りたい」との声もあったので、次回配布できるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏の竜田揚げ 25枚配布 ・鶏ひき肉とかぼちゃの卵焼き 28枚配布 		
評価・今後の課題	<p>保育園での日頃の食育に関する取り組みを、食育ボードを通して保護者へ伝えていく事ができた。</p> <p>今後、子どもたちへ向けて3色食品群の栄養ボードを作り、より食への関心を高めていく予定である。</p>	備考	




施設名	さいたま市立七里東保育園	電話	048-683-3969
住所	さいたま市立見沼区大字新堤 40		

事例 23	タイトル	かぼちゃの種はいくつあるかな？	
目指す姿 (大きな目標)	食材に興味を持ち、関心を深める		
当日のねらい (小さな目標)	食材に触れたり、種の数を予想したりする。		
方法	対象者 (〇で囲む)	①歳児・①歳児・②歳児・③歳児・④歳児・⑤歳児、保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年	
	場所	各保育室	
	資料・教材	かぼちゃ・かぼちゃの種・絵本「やさいのおなか」	
実施内容	全クラスに向けて2日間に分けて実施。 【1日目】かぼちゃ(実物)と絵本「やさいのおなか」を回覧し、各クラスで子どもたちが実物に触れたり、中身を想像したりしながら、種がいくつあるかを予想した。 【2日目】4・5歳児クラスが、かぼちゃの種を実際に取り出し数えた。結果を年長児が放送で発表し、各クラスに「1番近かった賞」などの賞状をプレゼントした。		
結果・参加者の反応や様子	乳児クラスではかぼちゃに触れてみる事で、大きさや重さを感じ、発見や驚きを保育士に伝える姿が見られた。また、「種」を知った事で、「たねあるかな？」と給食の食材の中から種を探してみるなど、かぼちゃに限らず食材への興味に繋がった。 幼児クラスでは、予想しながら自分たちでひとつひとつ数えてみることで、期待感を持って取り組みを楽しみながら、かぼちゃに興味を持っていた。給食に出てきたかぼちゃを積極的に食べてみようとする姿も見られた。 その後も、かぼちゃや種について話題にする姿があり、自宅から種を持って来て、種クイズをするなど、野菜や食材への関心を高めた様子だった。		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児と幼児で実際にかぼちゃに触れて中身が割れた様子が見ることが出来て、種クイズへのイメージも膨らみやすかった。そして、クイズ当日おやつがかぼちゃパイの日に行った為、食事中もクイズのことを思い出しながら楽しんで食べていた。 ・種の数の結果も掲示することで保護者も興味を持っている様子であった。 ・今後は様々な種のクイズを行い、更に食材に興味を持つ機会をつくっていく。 	備考	

施設名	春野保育園	電話	0486866756
住所	さいたま市見沼区春野 1-7-1		

事例 24	タイトル	野菜を切ったらどんな形？野菜スタンプをやってみよう	
目指す姿 (大きな目標)	楽しみながら野菜に触れ、食材への関心を高める。		
当日のねらい (小さな目標)	様々な野菜の切れ端でスタンプをして形や感触を楽しむ。		
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児 ①歳児 ②歳児 ③歳児 ④歳児 ⑤歳児、保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭 保育士 栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年8月29日(月)	
	場所	各クラス 室内	
	資料・教材	野菜の切れ端(とうもろこし、人参、玉ねぎ、青梗菜、オクラ、ピーマン、マッシュルーム、れんこん) 絵の具を溶いたスタンプ台、白画用紙	
実施内容	オレンジ、黄緑、紫の3色の絵の具スタンプを用意。幼児クラスからスタンプ台と野菜の切れ端を担任に配布し実施。乳児クラスは、保育者がスタンプを押す援助をしながら一緒に進行。実施している様子を写真に撮り、保護者向けに掲示を行った。		
結果・参加者の反応や様子	なじみのある食材を用意した為、野菜の名前を答えたり、丸や星形の形が出てくると驚きの声が上ががり、繰り返し押ししたりして楽しむ姿が見られた。 また、形だけでなくマッシュルームを触り「フヨフヨする。」と感触を味わうことも出来た。 玉ねぎは横半分になり、多重の円が出来るように用意したが、子どもたち自身で輪をバラバラにすることで大小異なる円が出来ることに関心を持っていた。 スタンプ実施後の給食にて人参が出てくると、同じ野菜であることに気づき保育者に話しをする姿も見られた。		
評価・今後の課題	給食中にスタンプした野菜と同じものが入っていたことに気付いたり食材への関心に繋がれたと感じる。 実際に園でそだてた野菜を使ってみたり、秋・冬ならではの野菜を用いて取り組むことでまた新たな発見や気づき出来るのではないかと考える。	備考	

施設名	さいたま市立上落合保育園	電話	048(852)1587
住所	埼玉県さいたま市中央区上落合2-9-10		

事例 25	タイトル	おうちでつくってみよう♪	
目指す姿 (大きな目標)	親子で食を楽しもう		
当日のねらい (小さな目標)	レシピを通して、親子で楽しく“食育”に興味を持つ		
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年 毎月19日から月末まで	
	場所	保育園の食育掲示板	
	資料・教材	レシピ(A4判を半分にして使用) 食育レシピボード	
実施内容	“親子で食を楽しもう”をスローガンに、昨年度に引き続き、給食のおすすめメニューに加えて、職員から募集した時短レシピ、子どもが好きな絵本に出てくるレシピを配布する。レシピの他にも三大栄養素ボード、行事掲示、昨年度より引き続き“歌うんだ隊”による『えいようのうた』の放送を行っている。		
結果・参加者の反応や様子	毎月19日“食育の日”の歌うんだ隊の放送時にお知らせしてからレシピの配付をしていたこともあり、子どもから保護者へ「レシピあるよ」と声を掛け、持ち帰る姿が見られる。また、今年度は掲示場所を登降園時に全員が通る事務所の前に設置したことやレシピをカラーで出したことで、より保護者から率先して手に取って貰える回数が増えた。保護者から「作ってみました」という報告と合わせて、子どもたちが食べていた時の様子を聞くことが増えた。また、どのように作ると良いか問い合わせがあるなど食育の取り組みに対して関心を持った声が届くことも多かった。		
評価・今後の課題	今までは園で提供される給食やおやつレシピを配布してきたが、時短レシピなど保護者に「つくってみよう！」と思ってもらえるものを取り入れたことや手に取りやすい場所に掲示するよう変えたことで、より関心を持って貰えたように思う。引き続き、レシピ(親子でやってみよう!と題したもの)の配付を予定しているので、親子で“食”に興味を持ってもらえるようにしていきたい。	備考	



施設名	さいたま市立与野本町保育園	電話	048 (851) 9057
住所	さいたま市中央区本町東7-4-19		

事例 26	タイトル	大豆マン登場！大豆を身近に感じよう！	
	目指す姿 (大きな目標)	栽培と収穫を通して、大豆の生長や様々な食材への変化に関心を持つ	
	当日のねらい (小さな目標)	大豆が身近な調味料に変化する過程を楽しみながら知る	
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・ <u>1歳児</u> ・ <u>2歳児</u> ・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・ <u>調理師</u> ・調理員・その他()	
	日時	令和4年9月28日(水)10:00～	
	場所	2歳児室	
	資料・教材	園で育てた枝豆(大豆)・煎り豆・納豆・豆腐・味噌・醤油・きな粉	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 大豆をフードプロセッサーにかけ、きな粉になる実演をする。 職員劇「大豆マン」。大豆が様々な形に変化し豆腐・味噌・納豆・醤油になる話を簡単な劇を通して伝える。 実際に園で育てた枝豆(乾燥したもの)・できたてのきな粉・大豆を触ってみる。 	
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> 枝豆をクラスごとに収穫をして、触ってみる活動をしていたため、大豆を見るとすぐに親しみを込めて「お豆」と話す子どもたちが多かった。 実際に調理師が豆をフードプロセッサーにかけて、きな粉に変わる様子を見たり匂いを嗅いだりすることで興味が高まる姿が見られた。 集会の最後に、育てた枝豆(乾燥したもの)・きな粉・大豆を触ってみて、硬さや匂いなど食材に興味、関心を持っていた。 集会の様子を当日に保護者向けに掲示をした。掲示と共に職員劇で使用した大豆マンのお面を貼ると、子どもたちが反応し掲示を見ながら親子の会話に繋がっていた。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1・2歳児対象の集会であったが、分かりやすいように劇形式で簡単な内容にすることで、興味を持って見る事ができた。 子どもにとってはイメージの浮かびにくい大豆だが、種から育てたことで身近に感じる事ができてよかった。 育てた野菜をそのまま食べる事が多い中、育てた大豆が形態を変えて色々な食材になっていくことを楽しみながら見る事ができた。 		備考

食育だより

園庭で育てていた枝豆が育ち、収穫後乾燥させて大豆になりました。「お豆の集会」を開いてお豆について楽しく学びました。



お豆をフードプロセッサーにかけると何が出来るのかな？



何が出来るんだろう？ジュースかな？真剣な子どもたち。

正解は「きな粉」だよ！今日のおやつはきな粉揚げパンだよ！



ほくは大豆マン！色々な物に変身するよ！



大豆がお風呂に入って・・・納豆に変身！



お豆3兄弟！みそ！なっとう！しょうゆ！



その後、各クラスで乾燥した枝豆・大豆・きな粉を見たり、匂いを嗅いでみたりしました。できたてのきな粉は、香ばしい香りがしました☆



施設名	さいたま市立大戸保育園	電話	048-853-2410
住所	さいたま市中央区大戸 2-7-19		

事例 27	タイトル	ポップコーンを作ってみよう！
目指す姿 (大きな目標)	栽培した野菜を身近に感じ、興味を持って食べる	
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> 栽培したイエローポップ(とうもろこし)を調理し、ポップコーンができる様子を知る 自分たちで育て、収穫した食材を食べる喜びを味わう 	
方法	対象者 (Oで囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・ <u>4歳児</u> ・5歳児・保護者・その他()
	実施者 (Oで囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()
	日時	令和4年10月21日
	場所	4歳児保育室
資料・教材	イエローポップ(乾燥させほぐしたもの)、油、塩、ホットプレート、紙皿	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥させほぐしたイエローポップに触れ、匂いや感触を確かめる。 ホットプレートにイエローポップと油を入れ、ふたをして炒る。 イエローポップが弾ける様子を観察する。 完成したポップコーンに塩をまぶし、実際に味わってみる。 	
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> 収穫し、1ヶ月ほど乾燥させたイエローポップを子どもたちとほぐす。ほぐしながら、「すごく硬いね」と感触を話したり、「これって本当に食べられるの?」と不思議そうに話す姿があった。 ガラスのふた越しに調理の様子を観察できたため、子どもたちは非常に興味を持って見ている。イエローポップの粒が弾けると、「中から白いのが出てくるんだね!」「初めて見た」と驚きの表情で見つめている。イエローポップを炒る中で匂いの変化に気付いて、「良いにおいがしてきたね!」と話していた。 出来上がったポップコーンを少量ずつ子どもに配り、味わってみる。「美味すぎる!」「おかわりちょうだい」と子どもたちからは喜びの声が上がる。保育園で栽培し、乾燥、ほぐすところまで子どもたちが関わったイエローポップなので、美味しさもひとしおだった様子。 	
評価・今後の課題	<p>・とうもろこしの粒が弾ける様子をガラスのふた越しに実際に見ることができ、家庭ではなかなかできない経験となった。</p> <p>・春先から栽培を始めたイエローポップを、みんなで収穫、乾燥、ほぐすなど、調理までの過程も楽しむ事ができた。</p> <p>・保育者が事前に家庭で調理し試してみたことで、出来上がるまでに時間がかかることは予測できていたが、上手く弾けない粒も多く、また焦げやすかった。事前に試してみる中で、上手く調理できる方法をいろいろと試し、工夫できるとよかった。</p>	備考



施設名	下落合団地保育園	電話	048-832-9167
住所	さいたま市中央区下落合3-8-2		

事例 28	タイトル	自分たちが育てたスイカでスイカ割りしよう！	
目指す姿 (大きな目標)	様々な実践を通して、野菜や食材に興味関心を持つ。		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生長を喜び、収穫することを楽しみにする。 ・スイカ割りを通じて、身体を使って楽しくスイカを観察する。 		
方法	対象者 (Oで囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児 (5歳児) 保護者・その他()	
	実施者 (Oで囲む)	幼稚園教諭 (保育士) 栄養士・調理師 (調理員) その他()	
	日時	令和4年5月2日～8月22日	
	場所	園庭	
	資料・教材	スイカ・棒・段ボール	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬、園庭の畑にスイカの苗を4株植える。スイカの生長を観察しながら世話をする。 ・実が大きくなったものは、子ども達と収穫し、給食室で1口サイズに切り分けて、給食時に食べる。 ・虫に食べられてしまったスイカは収穫後、スイカ割りをして身体を使って楽しむ活動とした。 		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ葉が茂り、ツルを伸ばし花が咲く様子を観察し、実をつけることを楽しみにしながら世話をしていた。 ・最後に実った4つ目のスイカを自粛保育明けに収穫しようと楽しみにしていたが、虫に食べられてしまったことを発見しガッカリする姿が多く見られた。このスイカを使って、スイカ割りをすることを提案すると、初めてする子ども達も多く、ドキドキ・わくわくした表情となった。 ・スイカ割りでは、スイカを割りたい気持ちから大きく棒を振りかぶったり、友だちを応援したり、スイカに棒が当たると歓声が上がった。クラス全員が行っても、ヒビが入ったが割れなかったため、子ども達の手の力で最後は割ると、「スイカの匂いがする！」「種がいっぱいあるよ！」「真っ赤だね！」と口々に発見したことを嬉しそうに伝えていた。 ・割ったスイカは子ども達が全クラスを回って得意気に見せに行く姿見られた。 		
評価・今後の課題	子ども達がとても楽しそうに生長を観察していた。花は咲いたが、なかなか実ができなかったこともあり、毎日実がついたか確認する姿があった。5歳児が世話をしている姿を見て、他クラスの児にも興味関心が広がった。自分たちが育てた野菜を収穫し、食べたり、遊んだりすることで、野菜や食材を身近に感じる事ができた。心が動く体験をしたことで、五感で感じたことや、感動した内容を言葉にする姿も見られるようになった。	備考	



園長先生見て！できたよ！



スイカ割り!!



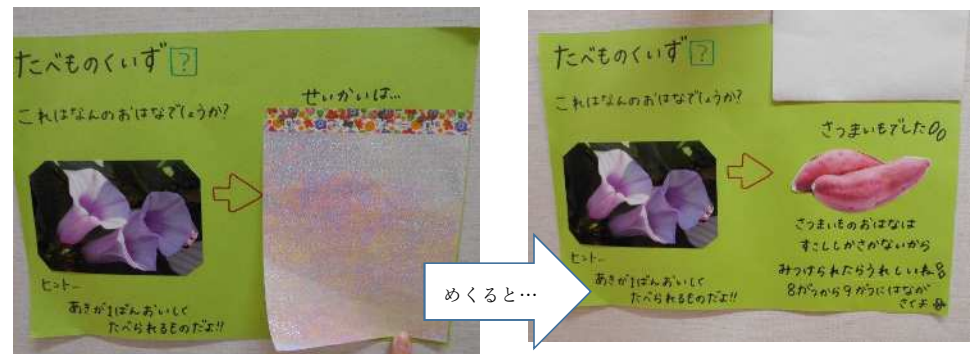
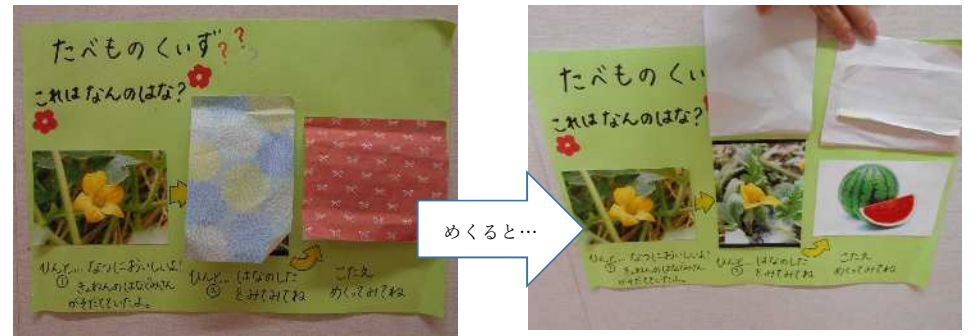
施設名	さいたま市立鈴谷西保育園	電話	048-853-7755
住所	さいたま市中央区鈴谷 7-3-31		

事例 29	タイトル	収穫した実でポップコーンを作って食べてみよう	
	目指す姿 (大きな目標)	栽培と収穫、調理を通して食への関心を高める。	
	当日のねらい (小さな目標)	収穫していた実からポップコーンを作り、ポップコーンになる変化を実際に見て楽しみ、できあがったポップコーンをおいしく味わう。	
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・ <u>5歳児</u> ・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年11月9日(水)	
	場所	5歳児保育室	
	資料・教材	子どもたちが育てて収穫して乾燥させたポップコーンの実、電熱調理器具、塩	
	実施内容	子どもたちの意見を取り入れ、夏野菜とともに育てていたポップコーン用のとうもろこしを、子どもたちの前で調理し、食べる。	
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・電熱調理器具に乾燥させていたポップコーンの実を入れ透明の鍋蓋をして子どもたちの前で温め始める。はじけるまでに時間がかかるため、遊びながら待っている子もいたが、クラスの半数弱は鍋の前で実の変化をじっと見ており、遊んでいた子も遊びの合間に様子を気にして覗いたり、匂いがしてきたと見に来る様子があった。 ・実が動き始めると「そろそろかも！」と見ていた子どもたちが遊んでいた友だちを呼びに行き、ポップコーンがはじける様子を皆で見て楽しんだ。「ポンポン言ってるね」「ポップコーンになった！」と子どもたちからの声が聞かれた。 ・匂いほどまで広がっているのかとベランダに出て匂いを嗅ぐ姿が見られた。 ・収穫していた実の3分の1程がポップコーンになり、保育士が袋に塩と一緒に入れて振って配り、子どもたちと食べる。「お家で食べたことある味だ!」「おいしい!」「もっと食べたいな。」という感想が出ていた。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ、子どもたちがポップコーンになる変化を目で見え楽しめるように、調理器具を工夫した。 ・ポップコーンにならなかった残りの実についても、午後の時間にトースターを使用して子どもたちと調理した。 ・普段食べているものがどういふふうに出て出来上がったのかを知る貴重な経験になった。 		備考



施設名	さいたま市立鈴谷東保育園	電話	048(855)1034
住所	さいたま市中央区鈴谷6-6-5		

事例30	タイトル	食べ物クイズで食育を！	
目指す姿 (大きな目標)	子どもと保護者が食についての話をするきっかけになる		
当日のねらい (小さな目標)	食に興味を持ち、食べ物について楽しく知る		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児 (1歳児) (2歳児) (3歳児) (4歳児) (5歳児) (保護者) ・ その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭 (保育士) ・ 栄養士 ・ 調理師 ・ 調理員 ・ その他()	
	日時	令和4年	
	場所	廊下	
	資料・教材	掲示物	
実施内容	食べ物に関するクイズを廊下に貼り出し、子どもと保護者が楽しみながら食に興味を持てるような掲示とする。		
結果・参加者の反応や様子	子どもたちが廊下を通る時にクイズを楽しむ姿が見られた。低い位置に貼り、めくると仕掛けを作ったことで、クイズ自体はまだ難しい乳児クラスの子もたちも、めくった時に食べ物の写真が出てくることを楽しんでた。送迎時に「これ何の花だと思う?」「これはブドウの花なんだって」と子どもが保護者に話し、一緒にクイズを楽しむ姿が見られた。保護者も「知らなかった。ブドウの花ってこんなふうなんだね」と、子どもたちと一緒に新しいことを知ったり、子どもと保護者が食について話したりするきっかけになる場面がたくさん見られた。		
評価・今後の課題	子どもたちが廊下を通る時に楽しく食べ物について知る機会を作ることができ、子どもと保護者が食について話をするきっかけにもなったので良かった。 花から実のクイズだけでなく、他の種類のクイズも考えたが、貼り替えのサイクルが遅くなった。長く貼っていたことで、繰り返し、十分楽しめる良さもあったが、貼りかえるだけでなく、たくさん増やしていく発想があっても良かったと思う。	備考	



施設名	八王子保育園	電話	855-4700
住所	さいたま市中央区八王子5-12-17		

事例 31	タイトル	食育ボードの活用	
目指す姿 (大きな目標)	普通の食事の中で食育を考えていく事を目的とし、毎日食べている給食に関心が持てるように5歳児を中心に食育ボードを使って3つの栄養素を知り、楽しみながら食べる意欲に繋げていくようにする。		
当日のねらい (小さな目標)	食育集会に参加し、楽しみながら3つの栄養素について知る。		
対象者 (○で囲む)	対象者	0歳児・1歳児・ <u>2歳児</u> ・ <u>3歳児</u> ・ <u>4歳児</u> ・ <u>5歳児</u> ・保護者・その他()	
	実施者	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年10月20日(木)	
	場所	ホール	
方法	資料・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・モグモグスター、インフルエンザ、好き嫌いの多い子の衣装 ・食育ボード・食材マグネット・えいようのうた 	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●感染予防対策として、2・5歳児クラス、3・4歳児クラスの2部制で食育集会を行う。 ●3つの栄養素をもとにした「モグモグスター」が現れ、好き嫌いをする子を敵役の「インフルエンザ」から守り、何でも食べると強くなると意識づけする内容の食育劇を行う。 ●その後、食育ボードを披露し、献立に合わせた食材マグネットを色別に分けていく。今後は年長児を中心に子どもたちで行えるよう、活用方法を伝えていく。 ●参加者全員で「えいようのうた」をうたう。 	
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの栄養素を題材にして分かりやすい内容の食育劇を行ったので、子ども達も楽しみながら栄養素についての興味や関心ももてた。栄養素を擬人化したことで、食材が「赤」「黄」「緑」の3色のどれに分類されるのか、どんな力があるのか子どもにも伝わりやすかった。 ・「えいようのうた」は、日頃から親しみ歌っているが、あらためて集会内で歌うことで子ども達に浸透していった。 ・食育ボードは食育集会后5歳児クラスで実践している。毎日の給食、おやつの中には当番活動の一環として楽しみながら取り組むことができています。 ・食育集会の様子を保護者にも掲示した。食育ボードとともにホールに掲示し園の様子を発信したことで、子ども、保護者ともに食事への興味、関心につながったのではないかと感じる。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・食育集会を通し、食材や栄養素への関心が高まったことを感じる。まだまだ食欲に繋がっていない場面も見られるので、今後も楽しい給食時間になることを目指して取り組みを続けていく。 ・集会だけでなく、日頃の食事の時間にどんなかかわりができるか考えていく。 	備考	



好き嫌いをしている子のところに「インフルエンザ」登場!




モグモグスター! あか、みどり、きいろの3色の栄養素について教えてくれました。




「食育ボード」食材マグネットをその日の献立に合わせて貼っていきます。

施設名	大久保保育園	電話	854-8818
住所	桜区大久保領家373-1		

事例 32	タイトル	家庭でも楽しめる！小麦粉を使った料理体験をしてみよう	
	目指す姿 (大きな目標)	料理体験をすることで、子どもの食への興味や関心を高める	
	当日のねらい (小さな目標)	小麦粉から出来る料理を知り、料理体験を楽しむ	
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年11月4日(金) 11月8日(火) 11月14日(月)	
	場所	3・4・5歳児室	
	資料・教材	小麦粉クイズ(ホワイトボード・料理のイラスト) 小麦粉、水 うどん・クッキー作り体験用の型抜き・麺棒	
	実施内容	小麦粉クイズを行いどんな料理に小麦粉が使われているのかをゲーム感覚で楽しみながら学ぶ。その後実際に小麦粉を使った料理(うどん・クッキー)体験を行った。小麦粉で生地を作り、丸めて伸ばしたり、切ってみたり、型抜きをしたりしてうどん作りとクッキー作りの過程を体験した。	
結果・参加者の反応や様子	前日に小麦粉を使うことを子どもたちに伝えていたため、準備の段階で子どもたちは保育士の周りに集まってきて、「はやくやりたい」と言っている姿が多く見られた。小麦粉で出来るものは何？というクイズは、初めて知るものもあれば、ケーキ・うどん・パンなど子どもたちが知っているものもあった。うどんはこねて伸ばして切る、クッキーは型抜きするなど作り方まで知っている子どももいた。実際に作り始めると、小麦粉がそのままの状態ではサラサラしていて、水を入れると少しずつまとまってく変化の過程に驚いていた。手で力強く握ったり、つついたり、丸めたり、伸ばしたりして、麺棒や型抜きを使いながら、うどんやクッキーを集中して作る姿が見られた。うどんやクッキーだけでなく、想像を膨らませパンを作っている子もいた。作りながら「今日、保育園に来て良かった～！」というつぶやきが子どもから聞かれた。料理体験をした日に色々な料理が出てくる絵本を見て、「小麦粉が入っている！」と気付いている姿もあった。		
評価・今後の課題	想定していたより子どもたちは小麦粉から作られている料理を知っており、小麦粉クイズを楽しんでいたようだった。実際に料理で使われている麺棒や型抜きを使うことで、より本物に近い料理体験が出来た。保育園では茹でたり焼いたりする前までだったため、この経験を家に持ち帰り、親子でも料理体験を楽しんでもらうことで家庭における食への関心を高めることに繋げていく。そのために料理体験時の写真の掲示や、レシピの提案をするともに保護者に体験時の子どもの様子を伝えるなどしていく。	備考	

施設名	さいたま市立田島保育園	電話	862-3425
住所	さいたま市桜区田島2-16-7		

事例 33	タイトル	やさい遊び～触ってみよう・切ってみよう～	
	目指す姿 (大きな目標)	本物の野菜に触れて、食材への興味関心を深める	
	当日のねらい (小さな目標)	本物の野菜に触れて友だちや保育士と一緒ににおいや感触、見立て遊びを楽しむ。 本物の野菜・調理器具を使って、切る・刻む・盛り付ける等の仕方を知り楽しむ。	
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年5月12日	
	場所	園庭	
	資料・教材	廃棄野菜・子ども用包丁・まな板・食器	
	実施内容	給食室に配達している八百屋さんから廃棄する野菜を頂き、やさい遊びを楽しむ。乳児組は実際の野菜に触れる。幼児組は野菜に触れるだけでなく、実際に調理(包丁で切る)してみる。以前にも実施したことがあるため、反省点を踏まえ、安全を期して、包丁とまな板を紐で繋げる。又、子どもに分かりやすいように、切り方をラミネートし、まな板に貼り付けて実施する。	
結果・参加者の反応や様子	・乳児組は、調理前の丸ごとの野菜を目の前にしてどうしたら良いのかと戸惑いを見せていた。少しちぎって食器に乗せてみると、見慣れた物に近づいたようで手を伸ばし始めた。慣れてくると、丸ごとの柑橘を手の平に乗せて「みてーみてー」と保育者に見せて回っていた。また大きいクラスの子の真似をして、ちぎって食器に入れ「ごはん」と言い、鍋に入れて炒める仕草をみせていた。 ・幼児組は、年長組から順に包丁を使う。まな板に貼ってある切り方を見ながら「どうやるの」と慎重に切る様子が見られた。中には「お家でもやったことあるよ」と自信をもって切る姿もあった。上手く切れた時には嬉しそうな顔を見せていた。また、切った野菜のおいを嗅いで「いいにおい」と言い、お皿に盛りつけて「サラダ出来たよ」と見立てて遊んでいた。年長組の様子をワクワクしながら見ていた年中・年少組も、真剣な顔を見せながら、自分で包丁を使って切れたことに喜ぶ姿があった。		
評価・今後の課題	・包丁調理では、年長組から順に始めたことが良かった。その姿を待ちわびながらも興味深く見ていたので、年中・年少組の順番になった時に戸惑う姿が少なかった。 ・保育園では調理後の野菜しか見えていない子どもたちが、丸ごとの野菜を見て・触って・においを嗅ぐことによって、野菜に対する興味関心が広がった。今後も実際に触れられる機会を作り続けていきたい。	備考	

施設名	さいたま市立白鵜保育園	電話	854-5539
住所	さいたま市桜区白鵜511		

事例 34	タイトル	謎解きスタンプラリー
目指す姿 (大きな目標)	楽しみながら食育について学ぶ	
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> クイズを通し食材に実際に触れる 食育に関する知識を高める 	
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()
	日時	令和4年11月2日(水)9時15分から9時45分
	場所	白鵜保育園園庭
実施内容	資料・教材	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 園庭にクイズを設置する(保育士が側につく) 子どもたちがカードを持ちクイズに答えていく。正解すると保育士からスタンプ(シール)をもらう。 イモスタンプを含めた6つのスタンプを集め、事務室へ景品(折り紙)をもらいに行く
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> 初めての試みであったが、クイズに正解すると喜びすべてのシールを集め「できた」と保育士に見せ嬉しい気持ちを共有していた。 「楽しかった」と言葉にする子どもも多く見られた。 一人一人がクイズに参加することで達成感を感じながら楽しむ事ができていた。 イモスタンプや葉は実際に見て触れることができ、外でみんなで行ったことにより特別感もあったようだ。 難しいクイズではないがクリテリウムにちなんだメニューや秋の食べ物について知ることができたと思う。 	
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> あそびながら行うことで楽しみながら学ぶことができると改めて感じた。 イモスタンプは全クラスが行い、実際に触れることができてよかった。 絵具を使用したのが、水が多かったようで垂れてしまう子もいたため、かたくすべきであった。 秋の食材だけではなく、今後も遊びの中で食材を取り入れ食育をより身近なものにしたい。 	備考



食育クイズをしました



園庭のあちこちにクイズを設置しました。正解するとシールがもらえます。子どもたちはシールをもらおうと一生懸命考えて答えていました。



実際に食材や葉に触れ見てクイズに答えていました。分からない時には友達と一緒に考えて、正解を導き出していました。全て正解し、園長先生からプレゼント(折り紙で折った秋の食材)をもらい嬉しそうな顔をしていました。



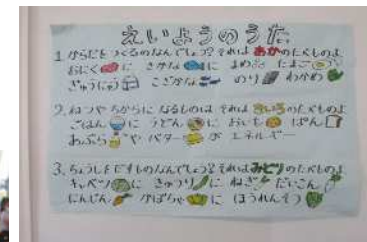
サツマイモを使い、イモスタンプも楽しみました。自分で好きな色を選び、何度も押しして楽しむ子もいました。

施設名	さいたま市立西堀保育園	電話	048-865-0271
住所	さいたま市桜区桜田3-9-12		

事例 35	タイトル	「にしほりげんキッズ ～バランスよく食べて元気になろう～」	
	目指す姿 (大きな目標)	・食育集会や掲示を通して食に興味を持ち、美味しく食べて元気に過ごす	
	当日のねらい (小さな目標)	・掲示板を通して調理員の紹介をし、調理している様子を紹介する。集会では未満時・以上児クラスに分け、「あか・きいろ・みどり」のげんキッズと一緒に食べ物と体の関係を知る。	
	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・ 2歳児 ・ 3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児 ・保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・ 保育士 ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年 6月30日(木)	
	場所	ホール	
方法	資料・教材	・げんキッズボード・調理道具も紹介 ・あわあわ手洗い、えいようの歌	
	実施内容	・1、2歳児、3・4・5歳児と分かれて集会を行う。げんキッズと一緒に食べ物と体の関係をペープサート等を通して子どもたちに伝えた。 また調理道具の紹介を行い、給食室で使用している鍋やしゃもじなど家庭で使用しているものと大きさを比べてみたり、子どもたちが実際に持ってみたりしてみた。	
結果・参加者の反応や様子	「えいようの歌」は5歳児室に掲示したところ、子どもたちが見て口ずさんだりする姿が見られた。野菜やイチゴの栽培を通して、小さいクラスの子も野菜の生長に興味を持ち、収穫した野菜に触れてみたり、食べてみる中で野菜が苦手だった子も「おいしい」と言って食べてみようとするようになった。 集会は、調理器具の紹介で給食室が使用している大きな鍋に小さい子も興味を示し手にしてみると、しゃもじでかき混ぜてみるなど楽しそうな姿が見られた。		
評価・今後の課題	・食に興味を持てなかったり、偏食の多い子もいたりするので、今後も集会や掲示などを通して分かりやすく楽しめる事を考えて行っていく。 次回の掲示では、なかなか見ることの出来ない給食室や食器、鍋の種類や数を写真などで伝えていく。また、子どもたちの好きなメニューの一つであるカレーを作る行程を紹介し、一年を通じての行事食を掲示で紹介していく。年度末には保護者にもアンケートをとっていく。		



『にしほり げんキッズ！～バランスよく食べて元気になろう～！』
食育集会 R4 6月30日(木)



施設名	上大久保保育園	電話	048-855-4801
住所	さいたま市桜区上大久保 940-3		

事例 36	タイトル	食育集会「何でもよく食べよう」	
目指す姿 (大きな目標)	何でもよく食べて、健康に過ごす。		
当日のねらい (小さな目標)	いろいろな食材に関心を持つ。		
方法	対象者 (〇で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (〇で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年11月16日(水) 10:30~10:45	
	場所	園庭ペランダ	
内容	資料・教材	野菜や米等の食材	
	実施内容	今年度は、食への関心を高めるために、保護者向けには食に関するコラムを発信し、子ども向けには食育集会を行う。食育集会の一回目は、本物の食材を見せながら、エネルギーとなる食べ物、筋肉や血を作る食べ物、体の調子を整える食べ物の紹介をして、バランスよく食べることの大切さを知らせる。食材の名前当てクイズ等、子どもたちが興味を持てるように工夫した。	
結果・参加者の反応や様子	白菜を見て「キャベツ」「レタス」、小松菜を「ほうれん草」「チンゲン菜」と答える子が多かった。給食の配膳時に、献立や食材の紹介をしているが、調理する前の食材とは結びついていないことがよく分かった。集会を通して本物の食材を見ることで、自分が食べる物への関心を持つことができた。また、食べ物の働きを知り、食べたもので自分の体が作られていると気付く事で、バランス良く食べようと意識する姿が見られるようになった。		
評価・今後の課題	<p>食べることに喜びを感じ、友だちや保育者とともにおいしく食べられるようになってきているが、食材や献立への関心の低さが目立ち、肉と魚の違いを分からずに食べている子も多い。集会を通して、自分が食べる物に対する関心を持つことができたように思う。</p> <p>また食べ物と自分の体との関係について知り、健康に過ごすために、第2回の食育集会では、うちについての話をする予定である。</p>		備考



何でもバランス良く食べよう!



野菜の名前当てクイズ!!



みんな興味津々に聞いています。

施設名	さいたま市立岸町保育園	電話	048-822-3010
住所	さいたま市浦和区岸町 6-5-12		

事例 37	タイトル	食育クイズ・食育集会	
目指す姿 (大きな目標)	食育集会を行う中で子どもたちに食の大切さを伝え、興味関心が持てるようにする。 食育クイズを通して保護者も一緒に楽しみながら食に対して興味を持ってもらう。		
当日のねらい (小さな目標)	食育クイズの正解を実際に検証しながら一緒に考えていく。ペープサートを通して様々な野菜の葉っぱの形に気付く。自分たちがいつも食べている給食がどのように作られているのか、実際に使われている調理器具を見て、触って身近に感じられるようにする。		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・(3歳児)・(4歳児)・(5歳児)・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・(保育士)・栄養士・(調理師)・調理員・その他()	
	日時	令和4年 10月 28日(金)	
	場所	岸町保育園ホール	
資料・教材	大鍋、パネルシアター(野菜畑でうんとこしょ!)、給食室で使っている調理器具(マッシャー・ボウル・ざる・鉄板・木べら・泡だて器等)・2ℓペットボトル 20本		
	実施内容	「野菜畑でうんとこしょ」のペープサートでは大根、ほうれん草等の様々な野菜の葉っぱの違いが分かるようにした。食育クイズで「給食室で使っている鍋は2ℓのペットボトル何本分の水が入るでしょうか」という問題を食育コーナーに掲示した。その結果発表と合わせて食育集会を行い、実際に子どもたちに2ℓのペットボトルの水を大鍋に注ぎ入れてもらい子どもたちと一緒に検証した。食育集会自体は3・4・5歳児のみの参加とし、未満児クラスはペープサートのみ行う集会を開いた。	
結果・参加者の反応や様子	食育クイズは3か月に一回ほど行ってきて子どもたちも楽しみにしているようだった。今回のクイズで使用した鍋は写真で掲示したよりもずっと大きく感じている様子で、初めて見る鍋の大きさに歓声を上げていた。集会に参加した子の中でクイズに答えてくれた何人かに代表して鍋に水を入れてもらったが、なかなかいっぱいにならない鍋にワクワクしながら最後まで集中してよく見ていた。また、参加型だったこともあり、調理器具の紹介では実際に調理師にどんな料理を作る際に使われているのかインタビューをしたことで子どもたちにとってもわかりやすく、興味を持てたようだった。ペープサートでは知っている野菜がたくさん出てきて「あ!○○だ!」と答えながら喜んで見ている姿があった。		
評価・今後の課題	ペットボトル一本一本に数字の札をつけ、空になったものを子どもたちの前に並べていったことで視覚的にもどれだけの水が入ったのかわかりやすく、子どもたちとしても水の量をより実感できたようだった。集会後の子どもたちの反応も良かった為、また次回以降も子ども参加型の集会を行っていきたい。今回、調理師に参加してもらったことで、給食に興味を持った児も多かった。今後も感染状況に気を付けながら給食の職員との交流を増やしていきたい。		備考



パネルシアターでは様々な形の葉っぱの野菜があることを伝えた。



調理師に給食室で実際に使っている調理器具を説明してもらった。




実際に子どもたちに2ℓのペットボトルを大鍋に入れてもらった。

クイズの正解者には10月が旬のサツマイモが描かれたメダルを渡した。




集会後にはクラスごとに調理器具を見たり触ったり、大鍋に入ったたくさんの水を近くで見られるようにした。

施設名	さいたま市立本太保育園	電話	882-3561
住所	さいたま市浦和区本太4-3-15		

事例 38	タイトル	食育集会	
目指す姿 (大きな目標)	おいしく、楽しく、バランスよく食べよう。		
当日のねらい (小さな目標)	三色食品群に興味を持つ。		
方法	対象者 (Oで囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (Oで囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年 10月28日(金)	
	場所	ホール・1歳児室	
実施内容	資料・教材	パネルシアター・三色食品群ボード(手作り)・うた[えいようのうた]	
	実施内容	三色食品群に関わるパネルシアターを見る。ボードを使って当日の給食のメニューと三色食品群の分類の紹介。うたの紹介。	
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物によって体の中での働きが違うことを知っている子が多かった。 ・事前に担任から絵本を読んでもらっていて「おいしい味のお手伝い(白)」を知っている子もいた。 ・食材の色によって分けられていないことを3歳児が知っていた。 ・シアターやボードを使い、子どもたちが興味をもって見ていた。 ・うたも知っているメロディーの替え歌だったのですぐ口ずさんでいた。 ・その日の給食の食べが良かった。 ・0、1歳も集会の雰囲気が楽しめるよう、うたと踊りを見た。 		
評価・今後の課題	<p>・ボードを使ってクイズをしている子がいた。献立表に興味を持つ子ができたなどクラスから報告があがってきている。また、歌を覚えて口ずさんでいる子がいる。給食中に「これは「あか」「のしゅるい？」など子どもたちから聞いていることがある。興味が持続するような工夫をしていく。(食材を触るなど)食育集会は今後も予定している。(調理師参加で食材の切り方などの実演)三色食品群にも触れていく。</p>	備 考	



施設名	さいたま市立領家保育園	電話	048-831-4378
住所	さいたま市浦和区領家7-14-16		

事例 39	タイトル	食育クイズ	
目指す姿 (大きな目標)	身近な食べ物の興味を広げ、体への働きを知る。		
当日のねらい (小さな目標)	友だちや保育士と、親子で食育クイズを楽しむ。		
方 法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年11月1日	
	場所	事務所前出入口付近	
	資料・教材	3色食品群	
実施内容	3色食品群についてや、季節の野菜クイズ、シルエットクイズを壁新聞にまとめ、登降園時に目にとまりやすい事務所前の出入り口のところに掲示をした。子どもたちが楽しめるように、めくって答えがわかる仕組みにした。		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児では通りすがりに、子ども同士でクイズを出し合ったり、楽しむ姿が見られた。 ・親子でクイズの答えを考えたり、答えをめくったりしながら、会話を楽しんでいた。 ・帰りに毎日のように掲示物に立ち寄っている子の保護者からは、「毎日答えをめくって楽しんでます。」と喜ばしい感想をいただいた。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・シルエットクイズにした事で小さい子も関心をもって見たり、クイズに答えたり楽しんでいた。 ・クイズの答えをめくって見られるようにした事で何度もめくってみる子もあり、楽しみながら食育にふれる機会がもてたと思う。 ・登降園時の出入り口に掲示した事で親子の会話が広がるツールとなった。 ・今後も親子で楽しみながら食育にふれられる掲示物を作っていきたい。 	備 考	



施設名	さいたま市立駒場保育園	電話	048-886-9200
住所	さいたま市浦和区駒場 1 - 27 - 7		

事例 40	タイトル	給食・おやつに携わってくれている人たちの紹介	
	目指す姿 (大きな目標)	卒園までに育てたい10の姿の1つ「社会生活との関わり」を育む。	
	当日のねらい (小さな目標)	自分たちが毎日食べている給食やおやつに、多くの人たちが携わってくれていることに気付く。	
方法	対象者 (Oで囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (Oで囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和4年11月	
	場所	給食室横の壁	
	資料・教材	カメラ、模造紙、カラーペン、のり	
	実施内容	本来なら、子どもたちと対面できる集会形式で実施するのが理想的であったが、コロナ禍という状況のため、保育者が業者さんの配達の様子や給食委託職員の仕事姿を撮影。年長児に業者さんや給食委託職員さんへの質問を考えてもらった。それは、アンケートという形にして、書面にてお渡しし回答をいただいた。そして、食育担当でアンケートと写真を盛り込んだ模造紙大の掲示物を作成し、給食室横の壁に掲示した。	
結果・参加者の反応や様子	<p>年長児のクラスで、業者さんや給食委託職員への質問を考えてもらった時は、予想以上の数の質問が挙がっていて、関心の強さを感じた。その質問をアンケート形式にして業者さんにお渡しし記入していただいたが、皆さんとても細かく丁寧に回答してくださり、子どもたちの思いにこたえようという気持ちが伝わってきた。配達の様子も、朝のお忙しい時間にも関わらず快く承諾してくださり、掲示をつくる際に活用させていただいた。</p> <p>普段なかなか目にする事のない、給食やおやつが出来るまでの舞台裏に、興味を持って見てくれる親子が多かった。降園時に見ていかれる方が多く、親子の会話のきっかけにもなっていた。また、職員も朝の配達の様子は初めて目にして知ることが多く、勉強になった。</p>		
評価・今後の課題	<p>2年前から取り組んでいる食材回覧で、食材に対する興味・関心は高まってきているので、その食材を調理してくれる人や園まで運んでくれる人の紹介をすることで、前年度より一歩進んだ食育活動になったと感じる。コロナ禍で、どうしても弱くなりがちな社会生活との関わりを、工夫することで子どもたちに提供することができてよかった。来年度以降も、他の業者さんの紹介を、可能ならば対面で実施していきたい。</p>		備考

